

令和7年度 第5回 政策決定会議 会議録

-
- ◆開催日時：令和8年2月3日（火） 10：35～10：53
 - ◆開催場所：市長室
 - ◆出席委員：佐野市長、藤浪副市長、岸副市長、大下教育長、西川総合政策部長
 - ◆説明者：河畑建設部長、黒見公園緑地課長、川端管理担当長
-

◆審議事項

スマート公園岸和田アクションプランの策定について・・・・・・・・・・公園緑地課⇒承認

◆審議概要

◎説明者から、案件及び政策調整会議における議論の内容を説明し、政策調整会議にて、本件原案のとおり承認された旨、報告。

◎報告後、質疑応答

〈藤浪副市長〉4月から全体的に満遍なく校区に入って話を進めていくのは大変だと思うが、どこから始めるかというイメージはあるか。

〈管理担当長〉最後の確認事項にもあったように横展開がしやすいところで、誰が見ても明らかにその校区の中心となる公園から整備にすることによって良い前例になれば、他の校区についても市民と一緒に考えていただけるきっかけになると思われる。前例になりやすいところから進めていこうと考えている。

〈岸副市長〉年次目標を定めず、地元の声を聞きながら進めていくということなので、しっかりと市民の声を聞いてもらいたい。全国自治体では国の支援制度を活用したモデル的な事例もあると思うので、参考にしてもらいたい。

〈教育長〉都市計画公園の見直しについて、公園の充足率が十分となったので計画を廃止する、という考え方で良いか。

〈管理担当長〉はい。

〈教育長〉市長とスポーツ振興課との議論の中で、校区ごとに子どもが自由に遊べるような場所があったら良いという意見があったと聞いた。基本的には遊具をつけず、子どもが自由にボール遊びができるというような公園の場合、あまり管理費はかからないのか。

〈管理担当長〉使うボールによってはフェンスを設置する必要がある。

〈公園緑地課長〉公園は使えば使うほど草も生えないので、管理費はかからない。公園を作ったが利用者がいない、というケースでは結構荒れてしまうことになる。

〈教育長〉遊具を入れると、その遊具で遊ぶ子どもたちだけが喜んで、多くの人にとっては利用面積が減ってしまう、また事故が起きたときの対応を考える必要がある等、維持管理が大変になる。遊具優先の公園整備ではなく、むしろ昔の広場のような公園を校区ごとに設けてはどうか。

〈管理担当長〉市民の方と話し合いながら進めたい。

- 〈藤浪副市長〉就学前の子どもを持つ親御さんにとっては、子どもと一緒に遊具のある公園で遊ぶのが大事なこともあると思うので、そういったところへの配慮もしてほしい。
- 〈公園緑地課長〉複数の公園をすべて同じようにするのはなくて、特色のある公園をバランスよく整備するよう進めたい。町によっては公園自体がないところもある。そういうところはハイブリッド的に複数の機能を持たせるなど、地元と話し合いながら進めていく。
- 〈市長〉町というよりは小学校区にボール遊びできるところと、遊具があるところを1つずつ設置してもらいたい。
- 〈公園緑地課長〉校区としてまとめたときに、ボール遊びするならこの公園、遊具で遊ぶならこの公園というのをできれば1つずつぐらいは確保したいとは思っている。そのあたりを町と話し合った後に、校区ではこういった形になっているということをもとめ、校区で意見を聞きたいと考えている。
- 〈市長〉校区では誰に話を聞くことになるのか。
- 〈管理担当長〉校区長を通じての話になる。1月の校区長会議でも大まかな内容を説明のうえ、これから校区ごとに相談することをお伝えはした。どうしても町会と直接話をしないといけないことも別途あると思うので、その辺はうまく捌きたいと思う。
- 〈市長〉1年で3分の1程度話が進む想定か。
- 〈管理担当長〉最初はモデル的なところを中心に進め、目標は2年程度で全部話を進められたらと思っている。地元との話し合いはどうしても時間がかかる。
- 〈市長〉ある程度、この校区はこういう形でやると決めているものがあれば、情報をいただきたい。
- 〈総合政策部長〉本案件について、原案のとおり承認してほしいか。

【異議なし】

⇒本件、原案のとおり承認する。

令和8年1月 16 日

政策調整会議付議依頼書

依頼者名 建設部長

下記事項について、効果的かつ効率的な市政運営実施のための会議の設置に関する規程第 14 条の規定に基づき、下記のとおり付議を依頼します。

記

付議事項名	スマート公園岸和田アクションプランの策定について
付議の目的 (ポイントを絞り込んで、簡潔に記載すること。)	現在、岸和田市が管理する公園緑地は、大小合わせて 310 ヶ所あり、市民の身近なオープンスペースとして、様々なリクリエーション活動や交流、健康増進などの賑わいの創出をはじめとして、ヒートアイランド現象の緩和や都市景観の向上、災害時における一時避難など市民生活における重要な都市インフラである。 今後の社会情勢の変化を見据えつつ、財政負担の軽減を踏まえた公園緑地の整備や管理水準の向上を図り、持続可能な公園緑地マネジメントを実現するため、「スマート公園岸和田市アクションプラン」を策定するものである。
説明者	建設部 河畑部長 公園緑地課 黒見課長、川端担当長
付議事項の概要	別紙のとおり

付議会議	令和7年度 第5回会議
付議事項	スマート公園岸和田アクションプランの策定について

★取組の目的

対象	市民
どのような状態を目指す	公園緑地のストックマネジメントを実施し、維持管理の効率化と管理水準の向上を図ることで、市民が安心して利用できる公園緑地の実現を目指す。

★総合計画上の位置付け

4020102	基本目標	人と自然が共生した住みよいまち
↑ここにコードを入力 (コードは「将来ビジョン・岸和田(体系)」シートを参照)	個別目標	人が緑と触れあっている
	個別目標の方向性	① まちの緑の適正な保全とまちの緑化を進める
	行政の役割	市民に親しまれる親水空間や公園づくりを推進する

★現状と課題

令和8年1月現在、市内には大小合わせて318箇所の公園緑地があり、多くの市民に利用されている。一方で、その大半は開設から30年以上を経過しており、ブランコ等の遊具をはじめ施設全体の老朽化が顕著である。安全性の確保と資産の有効活用の観点から、公園緑地の維持管理・更新に関するストックマネジメントの実施が重要な課題である。

国においては、都市公園の柔軟な管理・運営のあり方が提言されており、新たな価値創出や社会課題の解決に資するまちづくりの場としての活用が求められている。本市としても、こうした動向を踏まえ、時代の変化と多様なニーズに応える公園づくりを進める必要がある。

今後は、限られた財源と人員のもとで公園緑地の効果・効用を最大限に発揮させ、市民が安心して利活用できる環境を整備するため、スマート公園岸和田アクションプランを策定するものである。

(単位:千円)

実施中の取組及び予定する事項	決算(見込額)		予算額	見込額				
	R5年度	R6年度		R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度
スマート公園岸和田アクションプラン策定		5,837						
岸和田市みどりの基本計画中間見直し					3,000			
財源内訳	国費							
	府費							
	起債							
	一般財源		5,837			3,000		
	その他							
事業費			計	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度
			3,000	0	3,000	0	0	0

★当該事項に関連する人員増の必要性*

人員増の必要性	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度
有		1			
無					

★取組の効果を表す指標

指標名	単位	R5年度	R6年度	R7年度	目標値				
					R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度
① まちの緑の適正な保全とまちの緑化に対する満足度	%	62.4	60.5	57.2	60	62	65	67	70
②									

※事業費及び人員を確約するものではない。